

「執拗に、しつこく祈り続けること」

(ルカによる福音書 11:1-13)

ご受難の前のオリーブ山で、「この杯を取り除いて欲しい」と主イエスは祈りました。そして、祈りの中で「わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」と自分の思いを神へ委ねます。主イエスですら恐れの中で、必死で祈ることなくして、神のみ心に従って歩むことはできなかったのです。まして、わたしたちにとって祈ることがどれほど大切かと思ひ知らされます。

今日の福音では、主イエスはいわゆる主の祈りとともに、祈ることとはどういうことかを語られます。主イエスはたとえ話しを用い、「求め」「探し」「たたく」こと、つまり執拗に、しつこく祈り続けることの大切さを教えます。主の祈りのはじめ、「父よ」と神を呼ぶことから祈り始めなさいと主イエスは教えます。この「父よ」というのは、こどもが親しみを込めて父親を呼ぶ、「お父ちゃん」というニュアンスの言葉だといわれています。祈るときには最大限の親しみをもって、「お父ちゃん」と呼びかけることから始めなさいと、主イエスは教えられたのです。洗礼を受け、わたしたちは神の子とされ、神はわたしたちのお父ちゃんとなってくださいます。「お父ちゃん、お父ちゃん」と一生懸命に話しかけてくるこどもの話しを無視する父親はそうそういません。まして、父なる神は「お父ちゃん」と呼びかけるわたしたちの声を必ず聞いてくださり、わたしたちの望みをはるかに超えて、良い物、聖霊を与えてくださいます。

聖霊降臨のとき、祈る弟子たちに聖霊を降されたように、神は、祈るわたしたちにも聖霊を注いでくださいます。聖霊はわたしたちに必要な糧を与え、罪を赦し、誘惑から守ってくださいます。この聖霊が、主イエスですら祈らなければ歩むことができなかった、神と人とを愛して歩む道へとわたしたちを導いてくださいます。神との関係は決して遠いものではありません。わたしたちが祈るとき、「お父ちゃん」なる神は、必ず聴いてくださっています。